



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3423		
科目名	人権論		
担当教員	安藤 貴世		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1206	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H [理論的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（50%） G1 状況把握（5%） H1 倫理的思考（20%） I3 情報分析（20%）		
教員の実務経験	2006年から2009年まで3年間、外務省において任期付き職員として勤務し、外交実務を経験しました。 また、2016年より現在まで、法務省難民審査参与員として難民認定審査の業務に携わっています。 これらの実務上の知見と経験を活かし、実際に日本と諸外国との外交関係が形作られていく様子や、現実の国際的な諸問題の解決における国際法の適用、日本における難民認定の実情などにも触れつつ講義を行います（第11回、第12回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	国際的に普遍的権利であると考えられている人権の保障を謳った世界人権宣言に基づく「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」や「市民的及び政治的権利に関する国際規約」などの一連の国際条約について、その内容、形成過程及び背景となった国際的な人権思想の潮流、欧州人権条約など強制力を備えた地域的な人権保障の仕組み、そして、そうした条約などに基づいた具体的な人権保障の取組の現状と課題を概観します。その上で、人権保障に関する国際条約の日本における国内的実施に向けた取組の現状と課題についても考察します。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。 ■キーワード 国際人権法・人権の国際的保障・国際人権規約・難民の保護・女性や子どもの権利・地域的人権保障制度		
授業の趣旨	■副題 国際法の一分野である国際人権法をとおして、人権の国際的保障の仕組みについて学修しま		

	す。 ■授業の目的 本講義は、「個人の権利の保護」という危機管理における非常に重要な視点について、国際法における分野の1つである「国際人権法」をとおして習得することを目的とします。 ■授業のポイント まず、人権の国際的保障の歴史的展開や、国際人権規約の前身の文書たる世界人権宣言について概観したうえで、国際人権規約の成立経緯、概要、具体的事例を含めた実施措置など、国際人権法の基本的構造を学びます。そのうえで、国連における国際人権保障システムの仕組みや、近年国際社会において非常に大きな問題となっている難民・国内避難民の保護、内戦など武力紛争の場面における人権保護、その他、少数者、女性、子どもなど個別分野における人権保障の枠組、さらには地域的人権保障の取組などを、それぞれの関連条約規定を手掛かりに学修・考察します。								
総合到達目標	■国際法の一分野である「国際人権法」の基本構造、人権の国際的保障の仕組みについて説明できる。 ・国際人権法に関する基本的な知識や概念を修得し、国連や地域的国際機関などを通じた人権の国際的保障の仕組みについて説明できる（第1回～第8回）。 ・国際社会における人権に関わる諸問題について、国際人権法を切り口として理解し、自らの言葉で説明できる（第9回～第15回）。 ・人権保障に関する国際条約の、日本における国内的実施に向けた取り組みの現状について理解し、その課題について指摘できる（第14回、第15回）。								
成績評価方法	■リアクションペーパー、授業内容に関するミニテスト 3～5回（授業の実施形態によっては、回数が変更となる可能性があります）（20%）：適用ルーブリック C1、F1、H1（評価の観点）授業の内容を踏まえ、自ら考え理解しようとしているかどうかを評価します。 （フィードバックの方法）次の回の授業において解説をします。 ■中間テスト（授業の実施形態によっては、中間レポートに変更） 1回（30%）：適用ルーブリック C1、E1、F1、G1、H1、I3（評価の観点）授業の内容について理解し、自らの言葉で説明することができているかを評価します。 （フィードバックの方法）：提出後、解説を行います。 ■まとめのテスト（授業の実施形態によっては、まとめのレポートに変更） 1回（50%）：適用ルーブリック C1、E1、F1、G1、H1、I3（評価の観点）授業の内容について理解し、自らの言葉で説明することができているかを評価します。 （フィードバックの方法）提出後、解説を行います。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	授業中の私語は厳禁とします。								
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 人権の国際的保障の歴史的展開 ②授業概要 国際社会における主体（国家、国際機関、個人など）について概要を把握し、国際的な人権思想の潮流、人権の国際的保障の歴史的展開を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 新聞記事やテレビのニュースなどで、人権論の授業に関連する事実問題をピックアップする。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、人権の国際的保障の歴史的展開についてまとめる。 </td></tr><tr><td>3</td><td> ①授業テーマ 国際人権章典の成立背景と概要 ②授業概要 </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。	2	①授業テーマ 人権の国際的保障の歴史的展開 ②授業概要 国際社会における主体（国家、国際機関、個人など）について概要を把握し、国際的な人権思想の潮流、人権の国際的保障の歴史的展開を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 新聞記事やテレビのニュースなどで、人権論の授業に関連する事実問題をピックアップする。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、人権の国際的保障の歴史的展開についてまとめる。	3	①授業テーマ 国際人権章典の成立背景と概要 ②授業概要
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとおし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。								
2	①授業テーマ 人権の国際的保障の歴史的展開 ②授業概要 国際社会における主体（国家、国際機関、個人など）について概要を把握し、国際的な人権思想の潮流、人権の国際的保障の歴史的展開を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 新聞記事やテレビのニュースなどで、人権論の授業に関連する事実問題をピックアップする。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、人権の国際的保障の歴史的展開についてまとめる。								
3	①授業テーマ 国際人権章典の成立背景と概要 ②授業概要								

	世界人権宣言、自由権規約、社会権規約、自由権規約・社会権規約選択議定書など、国際人権章典を構成するそれぞれの文書、条約について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 条約集の中で人権の国際的保障に関連すると思われる条約を探して確認する。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、国際人権章典を構成する文書、諸条約についてまとめる。
4	①授業テーマ 国際人権規約の実施措置 ②授業概要 国際人権規約の履行確保制度について、政府報告制度、国家通報制度、個人通報制度などの概要を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 自由権規約委員会に関する配布プリント（第3回の授業時に配布）を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、個人通報制度に関連する事例、日本政府の方針についてまとめる。
5	①授業テーマ 国連における人権保障システム（1） ②授業概要 人権保障に関係する国連の主要機関とその機能について、総会、安全保障理事会、経済社会理事会などの活動を中心に説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 人権問題に関する国連の最近の活動事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、国連における人権保障システムについて各機関ごとにまとめる。
6	①授業テーマ 国連における人権保障システム（2） ②授業概要 国連における人権保障システムについて、特に国連人権委員会の活動経緯と、それに代わるものとして発足した国連人権理事会の機能を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） 人権問題に関する国連の最近の活動事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、国連人権委員会と国連人権理事会の相違についてまとめる。
7	①授業テーマ 地域的人権保障制度（1） ②授業概要 地域的人権保障制度（ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカなど）について、概要を説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） ヨーロッパなどにおける人権問題に関する最近の事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、授業で扱った地域の人権保障制度について概要をまとめる。
8	①授業テーマ 地域的人権保障制度（2） ②授業概要 地域的人権保障制度（ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカなど）について、概要を説明できるようになる。さらにアジアにおける人権条約成立の可能性について説明できるようになる（E1、H1）。 ③予習（120分） ヨーロッパなどにおける人権問題に関する最近の事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、授業で扱った地域の人権保障制度について概要をまとめる。
9	①授業テーマ 女性の権利 ②授業概要 女性の権利保護に対する国連の取組みと女子差別撤廃条約の概要について説明できるようになる（C1、E1、H1）。

	③予習（120分） 女性の人権に関する最近の国際・国内問題について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、女性の権利保護の仕組みについてまとめる。
10	①授業テーマ マイノリティの権利、子どもの権利 ②授業概要 少数民族と先住民の権利、子どもの権利条約などの概要について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 子どもの人権に関する最近の国際・国内問題について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、マイノリティ、子どもの権利保護の仕組みについてまとめる。
11	①授業テーマ 難民の保護（1） ②授業概要 難民、国内避難民とは何か、難民保護の歴史、難民条約の概要、国連高等難民弁務官（UNHCR）事務所の活動などについて説明できるようになる（E1、H1、I3）。 担当教員の実務経験を踏まえて、難民問題の現状などについて講義します。 ③予習（120分） 最近の難民・国内避難民の問題について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、難民条約における難民保護の仕組みについてまとめる。
12	①授業テーマ 難民の保護（2） ②授業概要 日本における難民認定の方法・問題点、現代の難民問題などについて説明できるようになる（E1、G1、H1、I3）。 担当教員の実務経験を踏まえて、日本の難民認定制度の仕組み、日本における難民申請の実情などについて講義します。 ③予習（120分） 日本の難民受け入れの実態について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、日本の難民認定制度の実情、課題などについてまとめる。
13	①授業テーマ 武力紛争における人権保障 ②授業概要 戦争法から国際人道法への展開、武力紛争における人権の保護について説明できるようになる（C1、E1、H1）。 ③予習（120分） 武力紛争における人権侵害に該当する最近の事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、武力紛争における人権保障の概要についてまとめる。
14	①授業テーマ 原子力災害と人権 ②授業概要 チェルノブイリや福島第一原発など、原子力災害と人権保障との関係について説明できるようになる。（E1、G1、H1）。 ③予習（120分） 福島第一原発事故の概要について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、原子力災害と人権保障との関係についてまとめる。
15	①授業テーマ まとめと授業内試験（授業の実施形態によっては、まとめのレポートに変更） ②授業概要 これまでの14回の授業での学習を総括し、人権論に関するまとめの考察を行う（E1、H1）。 ③予習（120分） これまでの講義ノート全体を見直し、不明な点等がないか確認する。

	④復習（120分） 講義全体を振り返り、今後の履修計画（人権論の関連科目など）を検討する。
関連科目	国際法（RMGT3451）、国際人道法（RMGT3453）、社会安全政策論（RMGT3521）、憲法と人権（RMGT1311）
教科書	岩沢雄司ほか編『国際条約集2022年版』（有斐閣、2022年）を毎回持参して下さい。昨年購入済みの場合は、2021年版でも構いません。
参考書・参考URL	初回授業および各回の授業において適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 水曜5限（予定）。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取って下さい。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%：パブリックセキュリティ35%：グローバルセキュリティ50%：情報セキュリティ5% ■危機管理学と法学とのバランス 法学50%：危機管理学50%

